

目次

- 2 **巻頭エッセイ**
積極的に比較しよう
- 4 **過去問に学ぶ**
動詞と目的語の組み合わせ
- 6 **語彙をふやそう**
名詞と助数詞の組み合わせ(1)
- 8 **看图学成语**
絵で見る成語(12)
- 10 **紛らわしい文法表現**
“在桌子上摆花”と“把花摆在桌子上”
- 12 **翻訳添削**
どこがおかしい？なぜおかしい？
——「日文中訳添削講座」から(18)
- 14 **新しいことばと古いことば**
“字母词”が増大する傾向
- 15 **読者の広場**
中国語学習への目覚め
揺れている軽声語彙

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

積極的に比較しよう

日本中国語検定協会理事・北九州市立大学 王 占華

「比較」は、我々が世界を認知するための重要な方法である。自然界の様々な物事、周囲の環境、新しい知識などに触れたり、またそれらを認識したりする際に、一刻たりとも「比較」が欠かせないと言っても過言ではないだろう。

例えば、朝、ドアを開け庭に出ようとしたとき、微風がそっと顔を掠め、思わず「あ、今日は涼しいなあ。」と口にした経験がどなたにでもあるのではなからうか。また、レストランで食事をしていると、自分と同じ定食を注文した隣のテーブルの人が、真っ先に味噌汁を一気に飲み干してからご飯を口にする様子を見て「順番が違う。ご飯が先だ。」と心の中で呟いたことがある人もいるだろう。

上の1例目では、比較すべき対象が目の前に実在しない、或いは確定できないといった漠然とした状況であるものの、やはり「ある日」と比べない限り「今日は涼しい。」といった判断は成立しないものである。2例目の比較対象は「自分」である。

言語の習得も上記の事例に似ており、そのプロセスに一貫して「比較」が存在していると考えられる。赤ちゃんがア－ア－と言葉をまね覚える段階で比較という思考があるかどうかは定かではないが、複数の言い方を身につけた時点から、彼（彼女）らは「これ」と「あれ」の相違を認識（比較）しているものと推測できる。なぜなら、赤ちゃんが母親に対し異なる要求する際、同じ音を発しないからだ。また、有名な言語学者趙元任氏は、著書の中で以下のような「珍談」を披露している。ある日彼が北京の街を散歩していると、お婆さんたちが井戸端会議で外国人の言葉について話しているのを耳にした。「外人さんとはおかしなものだね。どう見たって“水”なのに、“窩头”*と言うんだからね。」言語学者風に表現すれば、「彼女らは中英両言語の発音を対照し、その類似点を見出した」、といったところであろうか。

比較とはこのように“**无时不在，无处不有**”であるため、当然ながら外国語の習得及び教育において重要視される。伝統的な「翻訳法*translation method*」や、20世紀30年代より70年代前半まで旧ソビエトをはじめ中国においても君臨していた「自覚対比法*conscious-comparative method*」などは、学習者の母語と対象語との比較を基礎とする代表的な外国語教育法である。どれも母語を利用し、文法規則を中心とし外国語と比較しながら講義を進めるという手法が特徴であり、人間の認知規律に相応しい教育法であるが、しかしその一方で、学習者の母語で外国語を説明するという歴史的に定着した教育パターンと、大人学習者の外国語の実践に対する「回避心理」とも相性がよいため、自然と「視覚の外国語教育」となってしまった。昨今においては、マルチメディアの進歩、ネイティブ教師の増加や現地留学の利便化に伴い、母語を利用しない「直接法*direct method*」、「耳」と「口」を主役とした「聽說法*audio-lingual approach*」、「意志表現」を大綱とする「功能法*functional approach*」などが圧倒的に優勢となり、「対比・比較」を提唱する人が少なくなっている。そ

れどころか、「効果なし」「時代遅れ」といった非難の声が高まっているほどである。だが、いかに軽視或いは無視されようとも、教える側と学ぶ側の頭の中で行われる「比較」は消え去ることはない。ただ、現代の風潮は、意識的に比較を行う学習者とそれを鼓舞する教師、教材の減少といった現実にならざる影響を与えている。

「世間万事、過猶不及」。拙論では、母語との比較は大人における外国語学習の「ブラックボックス」であり、どのような教育法・学習法であっても、その動きを抑えるよりも、寧ろ積極的に意識的な「比較」をさせ、また比較の結果としての見出した異同点について分析させる方が賢明であると提唱する。他の方法を否定するつもりは一切ないが、こういった「意識的比較」を合わせて実施することがより有意義かつ効率的な学習に繋がるものと思料する。

一例として、かなりハイレベルな中国語学習者の“信用卡”の“卡”の発音がkeāのように聞こえることがある。原因は、日本語と中国語の基本的な「発音単位」を比較してみると一目瞭然となる。子音自体は全て無声音であるため、教育上の便宜により、両言語ともそれぞれの子音の後ろに母音を付け、発音を練習させる。日本語は音節単位でka ki ku ~kyoのように、子音kと母音とのすべての音節の組み合わせを五十音図の「か行」で提示するのに対し、中国語は音素単位なので、単にkeのみを用い、音素kの発音を教える。よって、“卡”を発音する際、五十音図式ではなく、keのeを完全に取り去り、改めてaと組み合わせ、kāつまり「か」と同じように発音すべきである。このような比較による「切り離し」意識と行動がなければ、“卡”だけでなく、すべての子音を発音する際に苦しく感じる。

私はかつて、“最近几天有点儿冷，()。”といった穴埋め式練習問題を日本人学生と台湾からの留学生に提示したことがある。これについて、日本人学生の多くが“我感冒了”と回答したのに対し、留学生たちは“注意别感冒。”とも埋めた。これは、日本語の“最近”が過去のことを表すのに対し、中国語の“最近”は近い未来も指すことに起因している。このように、できるだけ多くの同形語を実例で比較していくとそれぞれの用法を把握しやすくなるだろう。

また、比較という方法は、上述のような「発見」に留まらず、その結果に対し「なぜ異なるのか」という疑問を抱き、それについて自分なりの推測・まとめを導き出す過程を経ることにより、更に効果的な学習成果を挙げられると思われる。

中国語学習者は、語順について悩むことが多い。先日、友人から今年初物のリングを戴いた。学生諸君に、『今年』『大きい』『赤い』『二つ』『私の』『青森産』の6つの連体修飾語を用いて『リング』を修飾する日中両語のフレーズを作り、それらの修飾語の語順の原則を説明しなさい」という課題を出した。“两个红大青森产今年我的苹果”などの“五花八门”の試行錯誤を経て、“我的两个今年青森产的大红苹果”という正解に辿り着いた。また、学生たちは「中国語の連体修飾語には『領有』『数量』『時間』『来源』『特徴』『性質』という順位があるが、日本語には明確な順位がない」といった帰納もでき、皆が「比較」の楽しさを味わったようである。

*窩头：トウモロコシの粉製の蒸しパンに似た食べ物。発音wōtóuはwaterに近い。

動詞と目的語の組み合わせ

『中国語の環』編集室

準4級の記述式には与えられた日本語に相当する中国語を漢字で書くことを求める問題が課されるが、その中に必ず含まれているのが、「字を書く」、「自動車に乗る」、「図書館に行く」のような動詞と目的語を組み合わせて答える問題である。

“写字”“坐汽车”“去图书馆”が答えられればそれでよいのであるが、効率的な学習法としては“写字”を覚えたら併せて“写信”（手紙を書く），“写文章”（文章を書く），“写日记”（日記を書く）も一緒に覚える。ついでに、同じ「かく」でも「絵をかく」は“写”ではなく“画”を用いて“画画儿”となることを覚えておく。

“坐汽车”もこれ一つですませるのではなく、“坐电车”（電車に乗る），“坐火车”（汽車に乗る），“坐飞机”（飛行機に乗る），“坐公共汽车”（バスに乗る）を併せて覚えてしまう。この場合も、同じ「乗る」であっても自転車やバイクのように「またがって乗る」場合は“骑自行车”“骑摩托车”のように動詞は“骑”でなければならないということも整理しておく。

“去图书馆”は“图书馆”の位置に“学校”（学校），“邮局”（郵便局），“公园”（公園），“车站”（駅），“动物园”（動物園）……と、思い出す限りの単語を置き換えてみる。

以下はこれまでに出题された「動詞+目的語」フレーズとその置き換え例である。

いくつわかりますか？

以下はおよその目安です。

45組以上	35組以上	25組以上
3級レベル	4級レベル	準4級レベル

<input type="checkbox"/> (1) 吃饭	chī fàn	ごはんを食べる
<input type="checkbox"/> (2) 吃早饭	chī zǎofàn	朝ごはんを食べる
<input type="checkbox"/> (3) 吃午饭	chī wǔfàn	昼ごはんを食べる
<input type="checkbox"/> (4) 吃晚饭	chī wǎnfàn	晚ごはんを食べる
<input type="checkbox"/> (5) 吃面包	chī miànbāo	パンを食べる
<input type="checkbox"/> (6) 吃面条儿	chī miàntiáor	うどんを食べる
<input type="checkbox"/> (7) 吃药	chī yào	薬を飲む
<input type="checkbox"/> (8) 喝茶	hē chá	お茶を飲む
<input type="checkbox"/> (9) 喝酒	hē jiǔ	お酒を飲む
<input type="checkbox"/> (10) 喝咖啡	hē kāfēi	コーヒーを飲む
<input type="checkbox"/> (11) 喝汤	hē tāng	スープを飲む
<input type="checkbox"/> (12) 抽烟	chōu yān	タバコを吸う

<input type="checkbox"/> (13)	看电视	kàn diànshì	テレビを見る
<input type="checkbox"/> (14)	看电影	kàn diànyǐng	映画を見る
<input type="checkbox"/> (15)	看书	kàn shū	本を読む
<input type="checkbox"/> (16)	看杂志	kàn zázhì	雑誌を読む
<input type="checkbox"/> (17)	看报纸	kàn bàozhǐ	新聞を読む
<input type="checkbox"/> (18)	看小说	kàn xiǎoshuō	小説を読む
<input type="checkbox"/> (19)	看表	kàn biǎo	時計を見る
<input type="checkbox"/> (20)	看展览	kàn zhǎnlǎn	展覧会を見学する
<input type="checkbox"/> (21)	听音乐	tīng yīnyuè	音楽を聴く
<input type="checkbox"/> (22)	听广播	tīng guǎngbō	放送を聴く
<input type="checkbox"/> (23)	听收音机	tīng shōuyīnjī	ラジオを聴く
<input type="checkbox"/> (24)	借书	jiè shū	本を借りる
<input type="checkbox"/> (25)	借钱	jiè qián	お金を借りる
<input type="checkbox"/> (26)	借钢笔	jiè gāngbǐ	ペンを借りる
<input type="checkbox"/> (27)	租房子	zū fángzi	家を借りる
<input type="checkbox"/> (28)	说汉语	shuō Hànyǔ	中国語を話す
<input type="checkbox"/> (29)	说日语	shuō Rìyǔ	日本語を話す
<input type="checkbox"/> (30)	说英语	shuō Yīngyǔ	英語を話す
<input type="checkbox"/> (31)	说法语	shuō Fǎyǔ	フランス語を話す
<input type="checkbox"/> (32)	说德语	shuō Déyǔ	ドイツ語を話す
<input type="checkbox"/> (33)	说俄语	shuō Éyǔ	ロシア語を話す
<input type="checkbox"/> (34)	买词典	mǎi cídiǎn	辞書を買う
<input type="checkbox"/> (35)	买苹果	mǎi píngguǒ	リンゴを買う
<input type="checkbox"/> (36)	买邮票	mǎi yóupiào	切手を買う
<input type="checkbox"/> (37)	买衣服	mǎi yīfu	服を買う
<input type="checkbox"/> (38)	买东西	mǎi dōngxi	買い物をする
<input type="checkbox"/> (39)	有钱	yǒu qián	お金がある
<input type="checkbox"/> (40)	有姐姐	yǒu jiějie	姉がいる
<input type="checkbox"/> (41)	有弟弟	yǒu dìdì	弟がいる
<input type="checkbox"/> (42)	有时间	yǒu shíjiān	時間・暇がある
<input type="checkbox"/> (43)	有问题	yǒu wèntí	問題がある, 質問がある
<input type="checkbox"/> (44)	问老师	wèn lǎoshī	先生に尋ねる
<input type="checkbox"/> (45)	问问题	wèn wèntí	問いを発する, 質問する
<input type="checkbox"/> (46)	下雨	xià yǔ	雨が降る
<input type="checkbox"/> (47)	下雪	xià xuě	雪が降る
<input type="checkbox"/> (48)	下霜	xià shuāng	霜が降りる
<input type="checkbox"/> (49)	刮风	guā fēng	風が吹く
<input type="checkbox"/> (50)	吹风	chuī fēng	風に吹かれる, 風に当たる

名詞と助数詞の組み合わせ(1)

『中国語の環』編集室(U)

“量詞”(liàngcí) と称される助数詞が名詞と組み合わせられて使われることは中国語の大きな特色の一つである。

日本語でも助数詞はよく使われるが、中国語ほど豊富ではないし、また中国語と一致しないものが多い。

例えば「椅子」。日本語がこれを「脚」で数えるのは、言うまでもなく椅子が脚を有するからであり、中国語がこれを“把”(bǎ) で数えるのは背もたれの部分が握れるからであろう。

一方、同じく腰を下ろす道具であっても、寄りかかることのできない、すなわち握る部分のない“凳子”(dèngzi) になると、“把”では数えることができず、腰を下ろす部分の平らな面に注目して“张”(zhāng) を用いることになる。

この“张”が「紙」や「机」を数えるのに用いられることは、どのテキストにも出ている。共に「平らな面」を有することに注目してのことである。

日本語からの安易な類推は禁物である。中国語の発想に沿って、しっかり組み合わせを覚えよう。

以下に、数回に分けて、名詞と助数詞の基本的な組み合わせ例を掲げる。

いくつかわかりますか？

以下はおよその目安です。

全部	40組以上	30組以上	20組以上
2級以上	3級レベル	4級レベル	準4級レベル

- | | | |
|-----------------------------------|---------------|-------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 一把椅子 | yì bǎ yǐzi | 1 脚の椅子 |
| <input type="checkbox"/> 2. 一把傘 | yì bǎ sǎn | 1 本の傘 |
| <input type="checkbox"/> 3. 一把剪刀 | yì bǎ jiǎndāo | 1 挺(ちょう)のはさみ |
| <input type="checkbox"/> 4. 一把钥匙 | yì bǎ yàoshi | 1 本のかぎ |
| <input type="checkbox"/> 5. 一把梳子 | yì bǎ shūzi | 1 本のくし |
| <input type="checkbox"/> 6. 一把叉子 | yì bǎ chāzi | 1 本のフォーク |
| <input type="checkbox"/> 7. 一把壺 | yì bǎ hú | 1 個のやかん |
| <input type="checkbox"/> 8. 一包茶叶 | yì bāo chá yè | 1 包みの茶葉 |
| <input type="checkbox"/> 9. 一包糖 | yì bāo táng | 1 包みのあめ |
| <input type="checkbox"/> 10. 一包烟 | yì bāo yān | 1 箱のタバコ; 通常は20本入り |
| <input type="checkbox"/> 11. 一杯茶 | yì bēi chá | 1 杯のお茶 |
| <input type="checkbox"/> 12. 一杯咖啡 | yì bēi kāfēi | 1 杯のコーヒー |

□13. 一杯酒	yì bēi jiǔ	1 杯の酒
□14. 一本书	yì běn shū	1 冊の本
□15. 一本杂志	yì běn zázhì	1 冊の雑誌
□16. 一本词典	yì běn cídiǎn	1 冊の辞書
□17. 一笔钱	yì bǐ qián	1 口の金
□18. 一部词典	yí bù cídiǎn	1 セットの辞書
□19. 一部电影	yí bù diànyǐng	1 本の映画
□20. 一部电视剧	yí bù diànshìjù	1 本のテレビドラマ
□21. 一部小说	yí bù xiǎoshuō	1 部の小説；長編の
□22. 一场雨	yí chǎng yǔ	ひとしぎりの雨
□23. 一场电影	yí chǎng diànyǐng	1 本の映画；上映回数
□24. 一场球赛	yí chǎng qiú sài	1 試合の球技
□25. 一串钥匙	yí chuàn yàoshi	1 束のかぎ
□26. 一串葡萄	yí chuàn pútáo	1 房のぶどう
□27. 一串珠子	yí chuàn zhūzi	1 本の真珠のネックレス
□28. 一床被子	yí chuáng bèizi	1 枚の掛けぶとん
□29. 一床褥子	yí chuáng rùzi	1 枚の敷きぶとん
□30. 一撮盐	yí cuō yán	1 つまみの塩
□31. 一沓钞票	yí dá chāopiào	1 束の紙幣
□32. 一袋饼干	yí dài bǐnggān	1 袋のビスケット
□33. 一袋粮食	yí dài liángshi	1 袋の穀物
□34. 一袋水泥	yí dài shuǐní	1 袋のセメント
□35. 一道缝儿	yí dào fèng	1 筋の割れ目・隙間
□36. 一道墙	yí dào qiáng	1 枚の塀
□37. 一道命令	yí dào mìnglìng	1 つの命令
□38. 一道数学题	yí dào shùxué tí	1 題の数学の問題
□39. 一道菜	yí dào cài	1 種類の料理；コースの中の
□40. 一顶帽子	yí dǐng màozi	1 個の帽子
□41. 一顶蚊帐	yí dǐng wénzhàng	1 張りの蚊帳
□42. 一栋楼房	yí dòng lóufáng	1 棟のビル
□43. 一段路	yí duàn lù	1 区間の道
□44. 一段时间	yí duàn shíjiān	1 区切りの時間
□45. 一堆垃圾	yí duī lājī	1 山のごみ
□46. 一对花瓶	yí duì huāpíng	1 対の花瓶
□47. 一对夫妇	yí duì fūfù	1 組の夫婦
□48. 一顿饭	yí dùn fàn	1 度の食事
□49. 一朵花	yí duǒ huā	1 輪の花
□50. 一朵云	yí duǒ yún	1 かたまりの雲

絵で見る成語 (12)

絵・張恢

文・『中国語の環』編集室



四面楚歌 sì miàn chǔ gē

四面楚歌; 孤立無援の状態に陥ること。
楚の項羽が漢軍に包囲された時、四方から楚の歌声が聞こえてくるのを聞き、楚の地がはや漢の手中に落ちたかと嘆いたという故事から。



聳人听闻 sǒng rén tīng wén

人の耳目を驚かす; (おおげさなこと、ありもしないことを話して) 聞く人をびっくりさせる。“聳”は耳をそばだてる。



损人利己 sǔn rén lì jǐ

人を損ない己を利する; 他人の迷惑を顧みず自分の利益を図る。



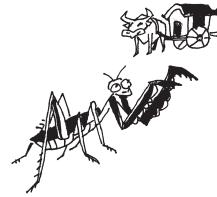
所向无敌 suǒ xiàng wú dí

向かうところ敵なし; 非常に強くて、何物にも負けない。行くところ敵なし。



泰然自若 tài rán zì ruò

泰然自若; 落ち着き払っていて少しも動じないさま。物事に驚いたり慌てたりしないさま。



螳臂当车 táng bì dāng chē

螳螂(とうろう)車に当たる; かまきりが前足を振り上げて車を阻もうとする。自分の力をわきまえずに無益な抵抗をするたとえ。身の程知らず。螳螂の斧(おの)。



讨价还价 tǎo jià huán jià
値段の駆け引きをする；売り手と買い手が虚々実々のやりとりをすること。転じて、交渉や談判の際に応酬を繰り返すこと。



提心吊胆 tí xīn diào dǎn
こわがってびくびくする；おっかなびっくりなさま。はらはらどきどきする。



甜言蜜语 tián yán mì yǔ
蜜のように甘いことば；人を欺いたり歓心を買ったりするためのことば。甘言。



铁面无私 tiě miàn wú sī
公正無私なさま；極めて公正で、いささかも情実にとらわれないさま。



同床异梦 tóng chuáng yì mèng
同床異夢；同じ立場にありながら互いに心が離れていること、共に行動しながら心の中では別な考えをもっていることのたとえ。



兔死狐悲 tù sǐ hú bēi
兎が死んで狐が悲しむ；同類相憐れむ。明日はわが身。そしる意を含むことが多い。

“在桌子上摆花”と“把花摆在桌子上”

日本中国語検定協会評議員・文京学院大学 魯 曉琨

“在+場所”（以下“在L”と記す）は動詞の前に位置する“在L-V”と動詞の後に接する“V-在L”という二種の使い方があります。

過去、2回に分けて、下記の両構造の差異を分析しました。

1 “在L-V動”と“V動-在L”（“在黑板上写字”と“字写在黑板上”）

2 “在L-V状”と“V状-在L”（“在沙发上坐着”と“坐在沙发上”）

今回は、1の延長線として、“在L-V動N”と“把N+V動-在L”の違いを考えてみます。

“在L-V動”と“V動-在L”について分析した際、“在L-V動”構文を次のようにA類、B類に二分類しました。

A類

(1) 学生在食堂里吃饭。(学生は食堂で食事をとる。)

B類

(2) 我在桌子上摆花了。(私はテーブルに花を飾っておいた。)

このA類とB類の違いにより、A類は“把N+V動-在L”に変換することができず、B類のみ変換することができます。例(3)(4)で示しているとおりです。

(3)* 学生把饭吃在食堂里。

(4)○我把花儿摆在桌子上了。(私は花をテーブルに飾っておいた。)

例(2)から(4)に変換できる理由は、両者とも動作の結果として、関与者が動作した場所に残る点にあります。

既に明らかになったように、両構造とも成立する場合でも、“在L”の働きが違うということです。“在L-V動”では“在L”は動作行為が成立する場所ですが、一方、“V動-在L”では“在L”は動作の結果としての関与者の到達位置です。例(2)では“在桌子上”は“摆”という動作が成立する場所ですが、一方、例(4)では、“在桌子上”は動作の結果としての“花儿”の到達位置です。

しかし、両構造にある“在L”の働きが理解できたとしても、日本語の訳文でほとんど区別をつけられない両構文の使い方です感していることでしょうか。もし、「私は花をテーブルに飾っておいた」を中国語に訳すように言われたら、どうすればいいのかという難題を抱えているのではないのでしょうか。

“在L-V動N”と“把N+V動-在L”は例文で示したように、両方とも他動詞構文であり、また、動作主の意図的な動作でもあります。例(2)も(4)も“我”が意図的に“花儿”をテーブルの上に存在させたということです。構文の表している事実のみを見れば、両構文はほとんど変わりませんが、構文の情報伝達の視点からみれば両構文の差異は明らかです。

例(2)と(4)の使われる文脈を見てみましょう。

(5)妈妈，快来看！我在桌子上摆了花儿。（*我把花儿摆在桌子上了。）

（お母さん，早く来て見て，私はテーブルに花を飾っておいた。）

(6)妈妈：桌子你怎么布置的？（テーブルはどう飾りましたか。）

女儿：我在桌子上摆了花儿。（*我把花摆在桌子上了。）

(7)妈妈：我放在门外的那盆花呢？（私がドアの外に置いたあの花は？）

女儿：我把花儿摆在桌子上了。（*我在桌子上摆了花儿。）

例(5)(6)では“在L-V動N”を，例(7)では“把N+V動-在L”を用いているが，二つの表現を互換することはできません。その理由は情報伝達において異なっているからです。

例(5)では“我在桌子上摆了花儿”は聞き手（妈妈）にとっては全部初耳で，つまり全部新情報です。

一方，(6)では文末の“摆了花儿”のみ新情報です。両方とも，“在L-V動N”を用います。

(7)では聞き手（妈妈）にとって“花儿”の部分は既知情報で，“摆在桌子上”のみが新情報であるので，“把N+V動-在L”を用います。

要するに，情報伝達においては，文全体が新情報であるか，または目的語（動作の受け手）が新情報である場合には“在L-V動N”を用いるが，動作の受け手が既知情報で，到達位置のみ新情報である場合には，“把N+V動-在L”を用いることとなります。

さらに，命令文における用例を確かめてみましょう。

(8)经理要在会客厅接待重要客人，你在桌子上摆一些花儿。

（社長が応接間で大事なお客様をもてなすので，テーブルの上に花を飾ってください。）

(9)经理要在会客厅接待重要客人，你把那盆花儿摆在桌子上。

（社長が応接間で大事なお客様をもてなすので，その花をテーブルの上に飾ってください。）

例(8)では“一些花”が新情報なので，この命令を受けた聞き手は自分で“花儿”を入手しなければなりません。一方，例(9)では“那盆花儿”が既知情報なので，この命令を受けた聞き手はその花を移動させるだけでいいわけです。

以上の分析が理解できるなら，「私は花をテーブルに飾っておいた」という文の中国語の訳し方はもうお分かりでしょう。つまり，一定の文脈がなければ“我在桌子上摆了花儿”にしても，“我把花儿摆在桌子上了”にしてもどちらも成立するが，一定の文脈のもとでは訳し方はどちらか一方にしかならず，互換することはできません。

これを簡単にまとめると，動作の受け手に注目すればいいのです。聞き手にとっては動作の受け手が新情報であれば，“在L-V動N”を用いるが，動作の受け手が既知情報であれば，“把N+V動-在L”を用いるのです。

どこがおかしい？なぜおかしい？

——「日文中訳添削講座」から（18）

(73) わたしはあなたのかばんも一緒に持ってきました。

介詞（前置詞）“把”を用いて客語（目的語）を動詞の前に出すことによって客語に対する処置を強調する“把”構文を用います。

「持ってくる」を“带来”と訳した答えが多く見られました。ここでは事物がある場所から他の場所に移ることを表す“过”を合わせて用い、“……过来”という複合方向補語の形にして“带来”とするのが自然です。「…も一緒に」の部分では、“也”のみで「一緒に」の“一起”が抜けている答えも多くありました。ここは日本文に忠実に訳しましょう。

《参考訳文》 我把你的包（书包／皮包／提包）也一起带（拿）过来了。

(74) ここの品物は値段が高く、しかも少々流行遅れな感じがする。

“不仅……而且……”（…ばかりでなく、しかも…）を用いて累加関係を表す複文を作ります。

「品物」を“物品”と訳した答えが見られましたが、口語ではあまり使いません。日本語でも「この物品」と言うと意味は通じますが、違和感があるのと同様です。“产品”は間違いです。これはどこで生産されているかということや、何を使って作られているかということなどについて言う場合に使います。「値段が高い」は、“价格高”と訳すことも可能ですが、通常は“贵”で表現します。

「流行遅れである」は“过时”で表すのが適当でしょう。或いは「他に比べると劣る」という意味で“落伍”（luòwǔ）を用いるのもよいでしょう。「…である感じがする」は、「あたかも…のようだ」という意味の“好像”を使うか、「少し…である感じがする」という意味の“有点儿……的感觉”を使って訳すこともできます。

《参考訳文》 这里的東西不仅很贵，而且还有点儿过时。

这里的東西不仅很贵，而且好像有点落伍。

这里的東西价格很贵，而且有点儿过时的感觉。

(75) 自分の食べる物着る物を切り詰めても、子供につらい思いをさせたくない。

「たとえ…であっても」とあることを仮定したうえで、「その場合でも」と意思や判断を伝える表現には“哪怕”“宁可”“就是”などの接続詞を使うことができます。いずれにしても後半の文に“也”を用いて呼応させることが必要です。

「自分の食べる物着る物を切り詰める」は、「満足に食べられない」→“吃不好”，「満足に着られない」→“穿不好”と直訳的に訳すこともできますし、或いは熟語の“节衣缩食”を使うこともできます。“节约自己的吃和穿的东西”と直訳した答

えも見られましたが、意味は確かに通じるものの、あまりにもぎこちない言い方になってしまっています。こういう場合、上のような決まった言い回しを知っていると、すんなりと訳せます。

「つらい思いをする」は、「苦しめられる」の“受苦”か、「不合理な状態に置かれる」という意味で“受委屈”を使うのが適当でしょう。

《参考訳文》 哪怕(宁可)再节衣缩食,也不想让孩子受苦。

我就是自己吃不好穿不好,也决不让孩子受委屈。

(76)今の学生は遅れることにあまり罪悪感を抱いていない。と、そう思いたくなるほど遅刻者はケロリとしている。授業時間の半ばを過ぎて現れても、平然たる顔だ。

授業に遅れることは“(上课)迟到”と言いますが、口語では“上课来晚了”とも言います。「罪悪感を抱いていない」は翻訳しにくいフレーズですね。“不感到罪悪感”という訳は“感”を同一人物に2回使ってしまうことになるので、語呂がよくありません。また“不感到罪恶”という訳も、“罪悪感”の“感”を消すことで文の流れがよくなったとは言え、意味が原文と異なってしまいう問題が発生します。これを解決するには、まず「罪悪感」をそのまま“罪悪感”として、“没有罪恶感”のように“没有”と組み合わせることをお勧めします。或いは「罪悪感」に“错误”“惭愧”“内疚”などの訳語を当てて、“不感到是错误”“不觉得内疚”のように“不感到”“不认为”“不觉得”などと組み合わせることもできます。

「そう思いたくなる」というのは日本語らしい表現ですが、一般的に“让我/使我/令我这么认为”のように使役動詞を用いて訳さなければなりません。

「授業時間の半ばを過ぎて現れる」については様々な誤訳が見られました。中国の大学では50分間の授業を“一节课”または“一堂课”と言います。この“节”も“堂”も“课”の量詞ですので、「授業時間の半ばを過ぎて現れる」の中訳としては“上了半节/堂课才来”“来晚了半节/堂课”のように用いることができます。

「平然としている」には「落ち着いている」という意味もありますし、「平気である」という意味もあります。前者であれば“沉着”“冷静”“坦然”“泰然自若”などと訳すことができますが、いずれもプラスの意味で用いる中国語ですので、本題の訳語として用いるとおかしくなってしまいます。一方、「平気である」という意味で用いる場合、“满不在乎”“若无其事”“不脸红”などの訳語が考えられますが、いずれも本題のようにマイナスのニュアンスを表す場合にしか用いられない語です。

《参考訳文》 ①现在的学生对于迟到并不觉得是犯错误。我看到迟到者那满不在乎的样子,才使我得出这个结论的。他们甚至上课时间过半才姗姗来迟,也是一副若无其事的表情。

②看到迟到的学生那副满不在乎的表情,让我感到当今的学生恐怕对迟到没有任何罪恶感。课上了一半才来,也是无所谓的表情。

(文責:高部千春)

“字母词”が増大する傾向

日本中国語検定協会評議員・共立女子大学 李錚強

“字母词”とはアルファベット表記式の語のことであるが、本来、当然ながら中国語体系の中では異質な存在であった。20世紀初頭、新文化運動の波に乗って、自然科学分野においてアルファベット表記式訳語は少量ながら使用されるようになる。しかし、社会科学分野においては、文学作品に“阿Q”（魯迅の小説《阿Q正傳》の主人公）というアルファベット表記語が初めて使用されたことがあるが、一般語として普及はしなかった。文化大革命までは、知識人の間で積極的に外国の概念を取り入れる傾向もあったが、「洋風追求」と批判され、“字母词”の使用は認められなかった。しかし、改革開放後になると、“WTO”、“U盤”（USBフラッシュメモリ），“T恤衫”（Tシャツ）のような“字母词”が次々と出現し、今では違和感もなく人々に使用されるようになった。2012年6月に改版された《現代汉语词典》（第6版）には“字母词”が239語収録されている。

このような“字母词”は大まかに以下3つのパターンに分けられる。

- 英語の略語 CCT V（“中国中央电视台”）、DNA（“脱氧核糖核酸”）、GDP（“国内生产总值”）
- アルファベット+漢字の略語 AA制（割り勘）、B股（B種類株）、B超（B型超音波スキャン）、IC卡（ICカード）、維生素E（ビタミンE）、r刀（ガンマナイフ）、pH值（水素イオン濃度指数）
- “拼音”の略語 HSK（Hànyǔ Shuǐpíng Kǎoshì “汉语水平考试”）、RMB（rénmínbì “人民币”）

“字母词”が大量に登場するようになった主な原因は、まず、外国との交流が盛んになるにともない、グローバル化しつつある環境を中国人が肌で感じているからだと思われる。例えば、WTO加盟やAPEC上海会議、猛威を振ったSARS、オリンピックの招致など国際的になった事柄は、WTO、APEC、SARS、IOCなどのような世界共通語を用いると便利である。また、英語教育の普及にともない、外国文化を理解しやすい条件が着実に整いつつあることも考えられる。2011年の後半から日本でも話題となったTPPという語について中国の新聞もTPPのままで使用し始めている。また、昨今、食品価格が一時二桁まで上昇したことをきっかけとして、毎月発表されるCPIという経済用語が大衆の関心事となった。この語は一昔前にはいくら長くても必ず“泛太平洋战略经济伙伴关系协定”または“居民消费价格指数”のように、忠実に漢字を当てて表記しなければならなかったであろう。“字母词”の大量使用について中国の言語学界では依然として批判の声が強いが、国民の生活リズムが速くなるにつれ、TPPのような洗練された表記は今後も増えていく傾向にあると思われる。

中国語学習への目覚め

黒木美歌

日本で数年働いた後、中国好きが高じて大連に渡り現地就職したのが6年前。この6年間、生活には困ることのない程度の中国語に自己満足していた。

1年前、日系企業の大連現地法人に転職し、日本人総経理に、「中検を受けませんか」と勧められた。数ある中国語資格の中でも、中国語検定だけが社内認定資格とのこと。その翌日、2級受験を決意し、過去問などを解いてみた。

それまで勉強をしてきたわけではなかったのに、意外と基礎ができていないのに気づく。そして、聞き取りや話すことはできても、書くことができない。いまさら知った漢字もたくさん発見した。

8月頃から勉強を始め、11月の第75回の2級を、総経理と一緒に大連で受験した。受験会場の教室一杯に受験生が座っていた。中国語を勉強している人はこんなにいるんだと衝撃を受けた。

その年が中国語検定協会の30周年とのことで、クリップをいただいた。30年も続いている検定を受験できたことは感慨深かった。

約1か月後、受験結果を中国語検定協会のホームページ上で検索し、自分の番号を見つけた。

実は受験勉強期間中に、準1級の準備も同時に進め、準1級もギリギリで合格できるレベルまで達していた。2級を高得点で合格できたので、次の目標として準1級を設定した。

翌年3月の第76回の受験は出張と重なったため見送った。実際の問題を自宅で解いてみたが、翻訳以外だと合格点に達している。準1級になると難易度がとても高くなるうえに、中日翻訳部分では日本語力も求められる。中国語と日本語とで表現方法が違う場合などがあり、中国語、日本語を問わず、いかに多くの文章に接してきたかが問われる。

また、リスニング問題では、与えられた問題を聞き取りながら書き取る問題があり、読み上げのスピードが速い上に、書き取る時間も多くはないので集中力が問われる。

受験前は、準1級受験について会社の同僚や友人に受験を取って公言し、逃げるようにできないように自分を追い込んだ。社内で初の準1級合格者になるべく、毎日の通勤時間と週末はほとんど勉強時間に充てた。

7月13日、第77回受験結果を確認した。合格していた。

試験勉強にあたって、上野先生のお言葉「試験のためのみの勉強をしないように」ということに注意してきた。

今後も楽しみながら中国語とつきあっていきたい。

揺れている軽声語彙

上野恵司

2012年6月に《現代汉语词典》の第6版が刊行された。第5版の刊行が2005年であるから7年ぶりの改訂ということになる。

わたくしたちの検定試験の出題に当たっては単語の発音や語義・用法のよりどころを主としてこの辞典に求めているので、新旧両版間の異同に注意しながら使用している。社会の変化を反映して古い単語が削除され新しい単語が補充されていることは言うまでもない。

このことのほかに、今回の改訂で目立つのは軽声語彙の扱いである。軽声が特有とまでは言えないにしても北京語に特徴的な現象であることは、よく知られているとおりである。北京が政治の中心であり、また語音体系の中核に北京語が据えられたことによって普通語には軽声語彙が多く見られた。ただし激しい社会の動きにつれて人もことばも北と南が融合し、本来軽声語であった単語が非軽声語に変わっていく傾向が著しい。

この傾向は今回の改訂においても変わっていない。以下はこの半年ほど第6版を使っていて気づいたもののメモである。

○“生日”は**非軽声**に これまでこの語はshēng・rì, つまりshēngrìと非軽声に発音してもよいし, shēng・rìと軽声に発音してもよいという扱いであったのが、非軽声のshēngrìに統一された。教材や試験問題の録音に立ち会った際の経験では、軽声と非軽声の両方が認められているものはたいいてい軽声に発音されていたが、この“生日”を軽声に発音する吹込者はいなかった。今回、実状とのギャップを埋めたということか。“愿意”のyuàn・yì→yuànyìも同類。

○“小姐”も**非軽声**に これまでも両方が認められていて、非軽声に発音する人もいたが、あまりはっきり発音すると“小解”（小便をする）になってしまうという冗談を聞いたことがある。

○“好处”“坏处”“长处”“短处”の“处”は**すべて非軽声**に これらの単語はすべて軽声で定着しているように感じられたが、今回すべて非軽声に。他に“错处”“苦处”“用处”“益处”なども軒並みに非軽声に。従来軽声と非軽声の両方が認められていた“暗处”“明处”“住处”なども一律非軽声に。

○“学生”は**両方可** 他にも従来軽声語として扱われていた“态度”“棉花”“码头”などが軽声と非軽声の両方が認められるようになった。

○**例外**は“熟悉” 大きな流れが「軽声から非軽声へ」にあるなかで、従来は両方が認められていたのが、流れに「逆行」して軽声に統一された。

細かく見ていけばまだまだあるに違いない。検定試験の出題に当たっては新版に準拠することになるが、当分は旧版での扱いにも配慮する必要がある。

(日本中国語検定協会理事長)